

紼とは、糸をあらかじめ染め分けてから織ることで、布地に文様を表す織物技法のひとつです。「弓浜紼」や「久留米紼」など、特定の産地で作られる布の名称としても知られています。

民藝運動の父・柳宗悦は、雑誌『工藝』第20号（昭和7年）において、紼について次のように評しています。

「思い様によっては紼は不自由である。染めれば染に出る模様でも織り出すのは容易でない。それも模様だけ色を変えて出すのである。考えるより手間がかかり、注意が入り、技術が要る。（中略）月並な拙い原画でも、圓（まる）みが出てくる。冴えた走った画でも、角がとれて罪がなくなる。紼の美しさはそこから生まれている。」

また当館初代館長で染織家の外村吉之介も、岡山中で収集した鶴亀文様布団地（右写真上から2番目）を例に挙げ「このような模様紼を一般に絵紼というけれども、美術的な絵画を求めたものでなく、工芸的な仕事で模様になりきっているの、模様紼と呼ぶべきである。そして模様化によって物の真髓が現われ、美しさも高められていることに注目せねばならない。生活に結びつく美しさは、工芸的模様になりきらねばならぬことを、この鶴亀はまざまざと示している。」と著書の中で述べています。

当館が所蔵する紼は726点を数え、本展ではそのうち産地が判明している日本の紼290点の中から約100点を選び展示いたします。いずれも主な収集者は外村で、山形県から沖縄県にかけて、明治から昭和時代に制作された品々です。

紼の魅力を通して、日本各地を旅するようなひとときをお楽しみいただけましたら幸いです。

会期中の催事

担当学芸員による ギャラリーツアー

〔日時〕2026年 1/11（日）14:00～15:00

〔内容〕企画展会場を巡りながら解説いたします

〔参加〕無料 ※別途、要入館料

注連飾り作り体験ワークショップ

〔日時〕2025年 12/13（土）13:00～15:00

※詳細は公式HPをご確認下さい

同時開催中

常設展示（全館展示品数 約600点）

『岡山の民藝品』『島根と鳥取の焼物』世界各地の『金工品』『籠』『家具』



公式HP



Instagram

〒710-0046

岡山県倉敷市中央1-4-11

TEL 086-422-1637

JR倉敷駅から徒歩15分（近隣に市営の有料駐車場あり）

最新情報は公式HP (<http://kurashiki-mingeikan.com>)

をご確認下さい。



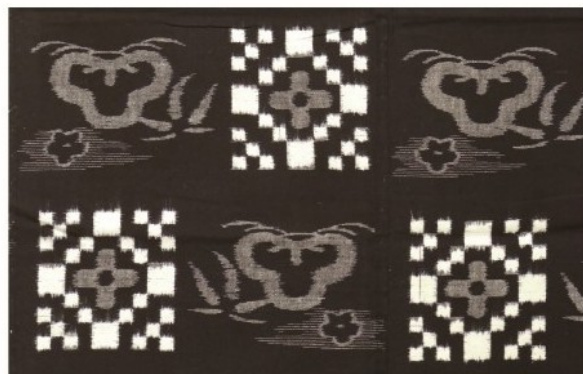
麻白紼衣（滋賀県・大正時代）



木綿模様紼（岡山県・明治時代）



木綿紼反物（岡山県倉敷・沖縄女子挺身隊・1946年）



木綿模様紼（山口県下関市横野町・1912年）



表紙写真 木綿紼衣（福岡県久留米・明治時代）